

保育者養成における歌唱指導についての一考察

『コールユーブンゲン』指導の調査・分析

笠井 キミ子¹⁾ 久原 広幸¹⁾ 柴田 万代²⁾

A Study of the Teaching of Singing in Childminder Training Guidance: Investigation and Analysis of Teaching 『CHORÜBUNGEN』

Kimiko Kasai¹⁾ Hiroyuki Kubara¹⁾ Mayo Shibata²⁾

(2011年11月25日受理)

I. 研究目的

本論文は保育者養成校での歌唱力育成について『コールユーブンゲン』の指導状況を記したものである。具体的には『コールユーブンゲン』課題習得過程を指導開始から指導終了まで調査・分析し、今後の歌唱指導育成の参考にしていくことを目的に本テーマを設定した。

[本論文で述べる保育者とは幼稚園教諭・保育士を総称している。]

II. 調査方法

調査については4月から7月に向けて、歌唱力の変化を調査する。同じ被験者に同じ曲を同じ方法で調査することで、習得できた点、習得できにくい点を比較しながら分析していく。

1) 実施日 4月8日 7月22日

2) 被験者と人数 1年次 52名

3人の指導者で3グループ16名～18名を同時に実施

3) 調査方法

『コールユーブンゲン』2曲を一人ずつ歌わせ録音する。また一人一人の歌唱状況を所定の記録紙に書き込む。

4) 課題曲について

①曲目 19f・23e

②選曲にあたって

本学に合格した時点で3度音程(『コールユーブンゲン』No.23g)まで練習して、入学後の準備をするように伝えていることから3度音程を選曲した。その範囲は2度音程～3度音程となっている

が、3度音程の曲2曲を選曲したのは、旋律も広がり音程のとり方が明確に分かることによるものである。

③歌唱力調査

曲目の2曲はその場で被験者に示した。まず、各グループでグループ毎に3回通して歌い、その後、1人ずつ前に出て、ピアノの横で指導者の方向を向き、2曲続けて歌った。その際、指導者は楽譜に気付いた点を記入し、更に録音した。

III. 曲の特徴とねらい

1) 課題19f ハ長調 4分の4拍子 16小節

曲の特徴として次のように示されている。

第14章 リズムの切れ目 楽句の切り方

リズムは楽理に定められた時間的長さの関係の一例であるが、楽句がリズムの切れ目に休符が来れば判断しやすいが、休符がなくても切れ目があるとはいえない。休符がなくても切れ目がわかるようにならないといけない。切れ目は聴いているものにもわかるようにすべきものである。またリズムのつながるものは、決して離してしまってはならないのである。このようにリズムが本来の形で切るものは切り、つなげるものはつなげることを「正しき楽句の切り方」という。リズムの切れ目はなるべく早くから明瞭に認められるようにつとめるがよい。

([※1]『コールユーブンゲン』15頁)

息の切り方の原則としてはリズム上の切れ目の時に呼吸する。はっきりしない場合は原則として弱拍の前で呼吸する。呼吸のためにリズムが害されない時は長い音符の後で息を切る。これは歌詞の無い楽曲の場合も同じであるが、歌詞が入ると切り方も左

右され変化する。

(『コールユーブンゲン』参照)

2) 課題23e 八長調 4分の4拍子 20小節

曲の特徴として次のように示されている。

第15章 二拍以上の拍が一音符となった場合、付点音符、スラー、切分音の新構造として、その中の23eについては4拍子の3拍・4拍と次の1拍とタイによりつながっている点、3拍切分音の練習となっている。

譜例1



以上、『コールユーブンゲン』に示された各課題の特徴を示したが、それを参考にしながら、次に本調査での課題を設定した。

IV. 調査でのポイント

1) 課題19fについて

ア. 開始音がとれるか

イ. 音程

① 3度の後の2度の音程 ② 2度の後の3度の音程

③ 3度の下行音程 ④ 休符の後の音程

ウ. リズムの区切り・呼吸

① ブレス ② 休符のカウント

エ. 拍子がとれるか

オ. 楽句の切り方

2) 課題曲23eについて

ア. 開始音がとれるか

イ. 音程

① 3度の後の2度の音程 ② 2度の後の3度の音程

③ 3度の下行音程

ウ. リズムの区切り・呼吸

① ブレス ② 休符のカウント

③ タイによる2拍以上の一音符

④ シンコペーション

エ. 拍子がとれるか

オ. 楽句の切り方

V. 調査結果

IVで挙げた項目について、録音した記録をもとにデータ化し、集計した。その結果を100分率および母比率の比較検定により分析した。なお、母比率の比較検定については、比較に差があったといえるものについてはグラフ中に*で示している。

1) 結果

譜例2 19f 3度の後の2度音程 (①'及び⑥'は、休符の後であることを示す。)

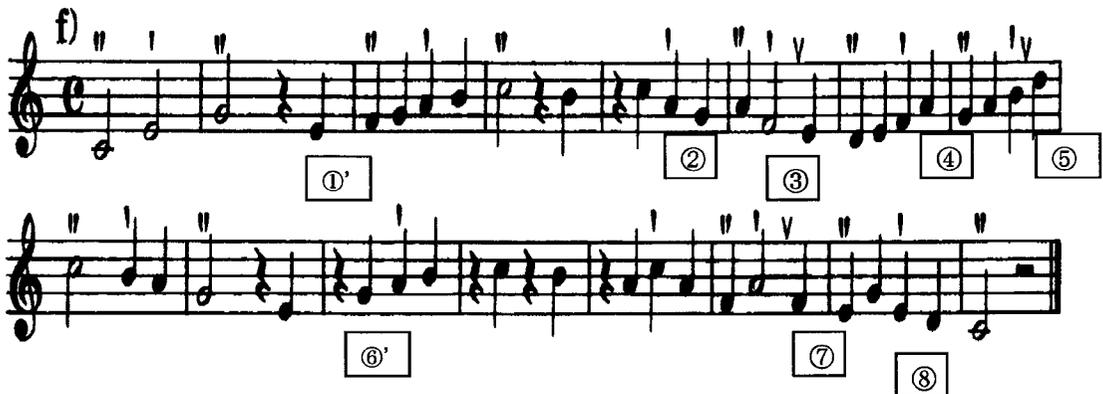
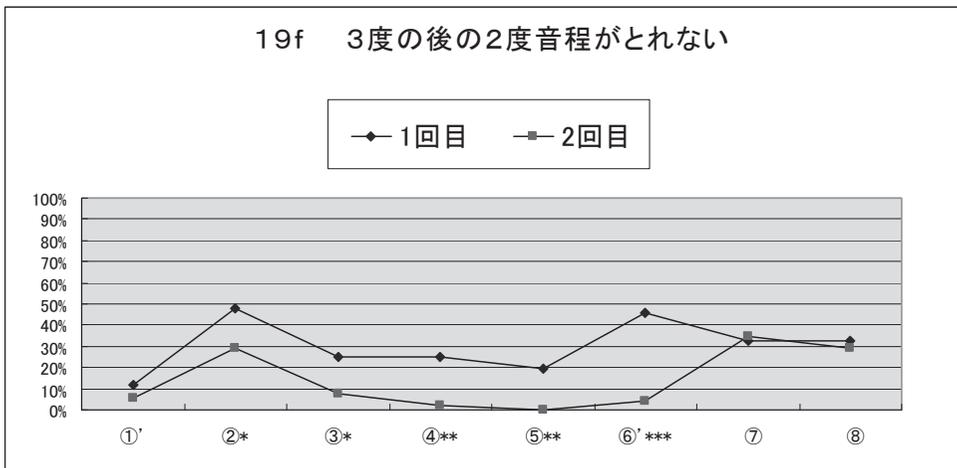


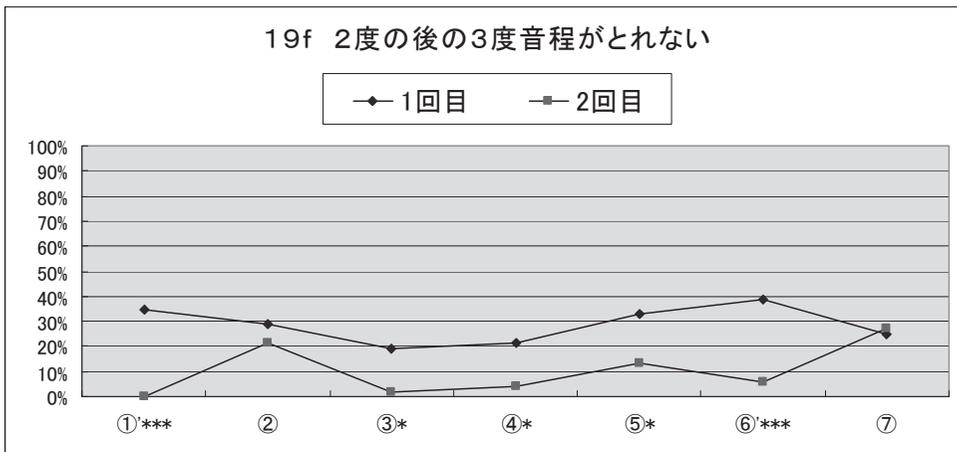
図1 19f 3度の後の2度音程がとれない被験者の比較



譜例3 19f 2度の後の3度音程 (①'及び⑥'は、休符の後であることを示す。)



図2 19f 2度の後の3度音程がとれない被験者の比較



譜例4 19f 休符の後の音程

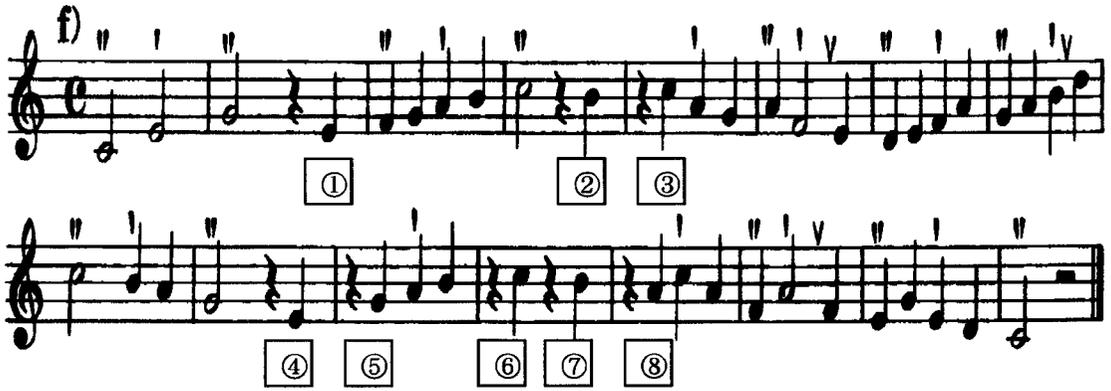
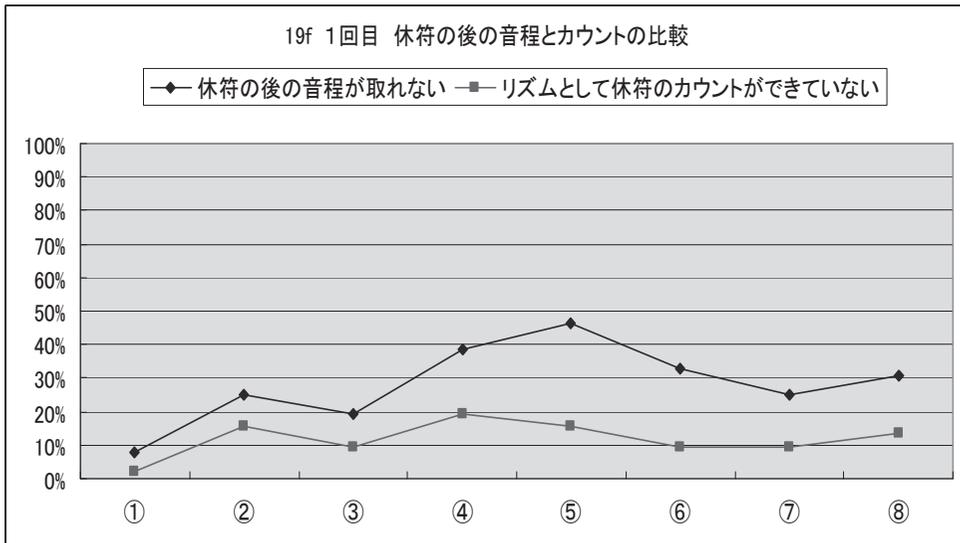


図3 19f 休符の後の音程とカウントの比較 (1回目4月)



譜例 5 23 e 3度の後の2度音程

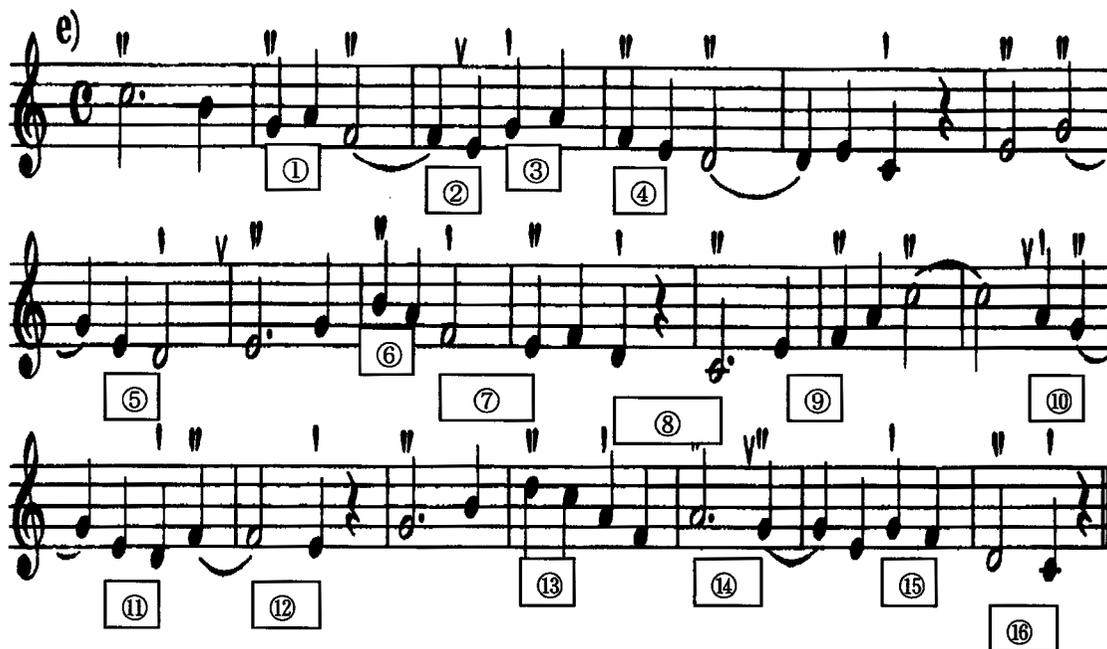
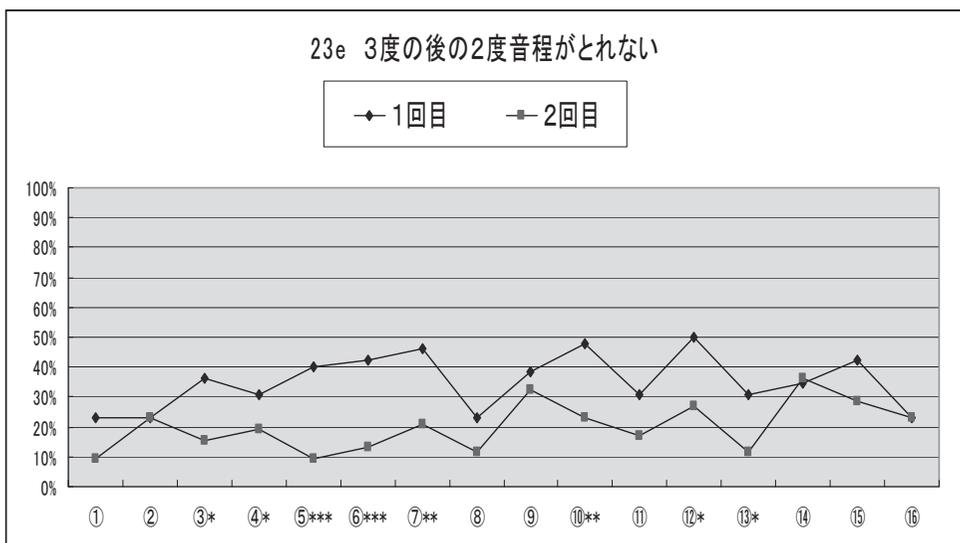


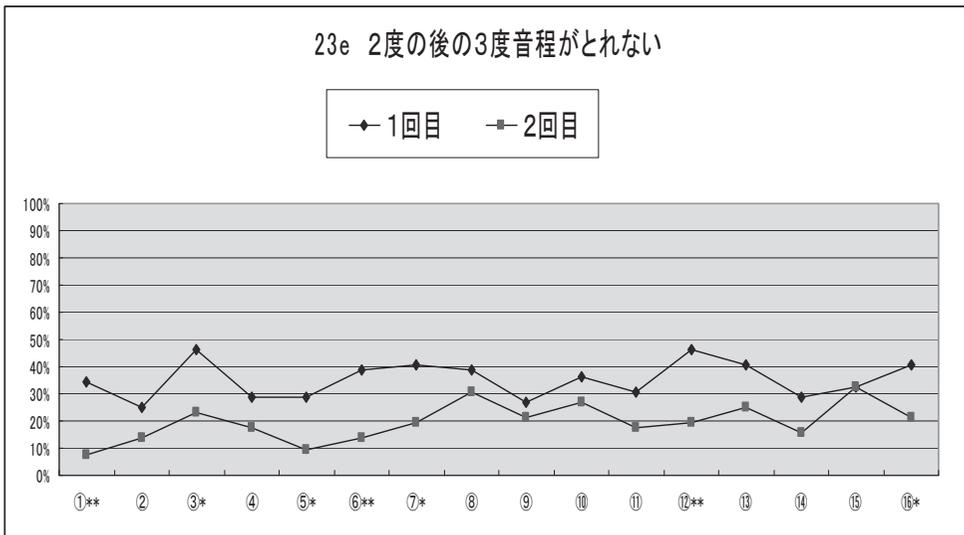
図4 23 e 3度の後の2度音程がとれない被験者の比較



譜例6 23e 2度の後の3度音程

The musical score consists of three staves of music. Below the notes, 16 numbered boxes are placed to identify specific intervals. The boxes are numbered 1 through 16, corresponding to the intervals listed in the table below.

図5 23e 2度の後の3度音程がとれない被験者の比較



譜例7 23e タイ

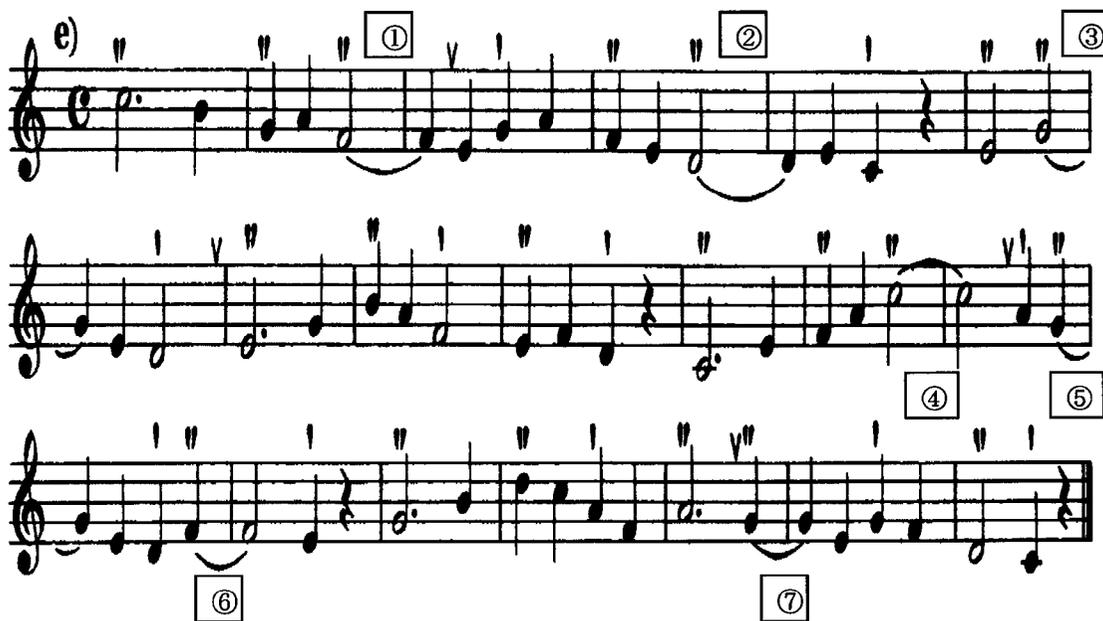
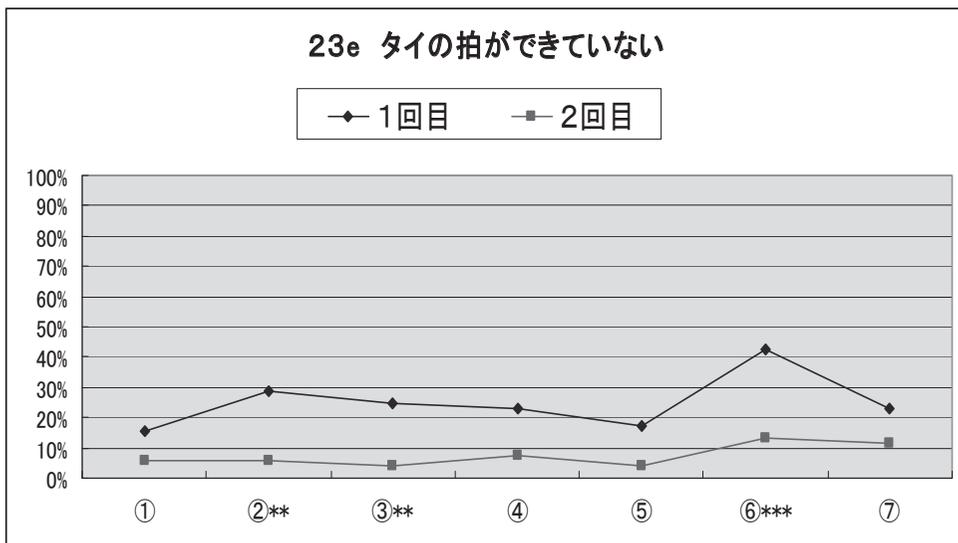


図6 23e タイの拍ができていない被験者の比較



2) 考察

1回目の4月と2回目の7月の点から比較すると、図1、図2、図4、図5、図6より、歌える箇所が増えたことが分かった。このことについては、1回目の4月から2回目の7月の間に授業の中でいろいろな曲を勉強して、音に対しての意識もできてきて歌えるようになってきたと考えられる。そして、その結果、楽譜にも慣れ、歌うことに慣れてきて、緊張もややほぐれてきたと理解する。

次に曲目毎に考察すると、19fについては、より良くなっていることが結果から分かる。それは、複雑なリズムや音程も比較的少なく、小節数も少ないことから、理解も良くでき、速い上達につながったと思われる。

また、図3については、休符のカウントができない場合と休符の後の音程がとれない場合の1回目の4月分を示しているが、休符のカウントに対してあまり意識がおよばないようである。休符のカウントについて認識を深めるように指導していきたい。

23eについては、特にリズムの点で新構造の形が含まれており、拍の数え方が分からなくなる場合が多かったようだ。リズムの新構造については理解して歌えるまでに時間を必要とすると考えられる。

2度音程、3度音程については前後の流れの関係で影響される箇所などがはっきりとしていて、調節していく練習が必要であることを読み取ることができた。

次に4月、7月の調査より気付いた点を具体的にあげる。

① 4月での調査より

○開始音がとれているか

- ・だいたいとれているが、何回か音を弾き直してとる場合もあった。
- ・一点ハの開始よりも、二点ハの音で始まる場合が下がって音をとる傾向であった。

○拍子がとれているか

- ・1フレーズの休符の後が止まって間をおいてしまう。
- ・所定の位置以外でのプレスが多かった。

○音程

- ・音と音との隔たりがほとんどなくメロディにならない。
- ・上の音が下がり、音程が狭くなっている。

② 7月での調査より

○開始音がとれているか

- ・開始音については4月よりはとれるようになっていた。
- ・二点ハの開始音は難しいようだった。発声の問題

であると思われる。

○拍子がとれているか

- ・拍子によって数えて歌えるようになっていた。
- ・前回より止まらないで歌えていた。

○音程

- ・前回より安定して歌えていた。

次に4月～7月までの指導状況を述べる。

4月の調査から7月の調査までの間、3度音程～5度音程までの35曲を指導した。その指導要点は、音程として2度の長2度、短2度の違い、3度の長3度、短3度の違い、4度の完全4度、増4度の違い、5度の完全5度、減5度の違いを注意して、音階を歌いながら分かりやすく指導をしていった。

音程が上手くとれない場合、その原因を考え、発声やフレーズの理解などができるように説明を加え、指導した。また、拍子をとりながら歌うことの徹底を図り、リズムの指導にも力を入れた。

次に受講者に感想を聞いたので、一部を次にあげる。

○学生の意識の変化として

- ・拍の長さを数えるようになった。
- ・23eは長い音符を伸ばしている時、拍数が分からなくなる。
- ・2回目の歌唱では人前で歌うことに慣れた。緊張がややほぐれた。
- ・19f、23eでは23eの方が難しい。
- ・1回目より2回目の方が歌えるようになったと実感している。

以上の感想から、このように、受講者と指導者が意図した点や問題点などを通して、互いに歌唱について考えることができた。

VI. まとめ

音楽のもつ意味や具体的な練習方法など多くのことが学べる貴重な歌唱指導の教科書として、『コールユーブンゲン』を今まで使用してきたが、この度、その課題練習について具体的に課題2曲をあげ、分析できたことは良い機会を得たと思っている。

これまでの課題に対する評価は全体的な仕上がりにして、充分、不十分とするものであった。しかし今回、細かい音程やリズムに焦点を置き、分析する試みによって具体的なデータを得ることになった。

また、授業で学びながら、努力をして、自ずと得ることのできる歌唱部分と、自分だけの練習だけでは習得できにくい箇所などが、分析の結果により分

かった。どのような指導法や言葉のかけ具合かによって、不十分な箇所を習得していくことができるのか、受講者としっかり向き合って研究していきたい。

更に、調査での問題点の一つとして、二点ハの開始音が難しく歌いにくいことの結果が出たことから、発声指導の工夫も含めて、今後の指導法の研究を重ねることで歌唱力育成にいかしていきたい。その点からも、9月からの声楽科目における指導の取り組みを、今後、別論文としてまとめていきたいと考えている。

謝辞

集計にあたっては、統計処理方法について教育学部助手の泊洋子氏にご助言ご指導いただきましたことに、心より御礼申し上げます。

引用文献・参考文献

[※1] 『コールユーブンゲン』 城田又兵衛 解説
1949 音楽之友社